



第26回ボランティア 研修交流会

《安全・安心な送迎のために》

～透析患者さんを理解しよう～

九月二十四日(日)「ウエルとばた」で門司港腎クリニックの田中先生の解りやすい講義がありました。送迎時のトラブル対処の実践に、参加された皆さんは、直接シャント触れて、覚っていました。

第二十六回ボランティア研修交流会が、九月二十四日十時から、ウエルとばた八階会議室で開催されました。参加者は、ボランティアさん三十四名でした。講師に門司港腎クリニックの田中秀欣先生をお迎えして、「安全、安心な送迎のために！」(透析患者さんを理解しましょう)と言う演題で講演がありました。まず、初めに、安全送迎への提案をされました。

- ・患者さんは体調を整える。
- ・急がない、急がせない
- ・運転第一、傾聴第二
- ・心配性が防ぐ予想できるトラブル
- ・安全送迎の智慧を集めよう
- ・異常時には迷わず停車。医院へ連絡・救急車を呼ぶとしている。



門司港腎クリニック
院長 田中秀欣先生

利用者のお迎えが、五分やそこら遅れても大丈夫ですから、落ち着いて運転してください。といわれました。

次に、先生の専門としている腎臓病について詳しくお話がありました。腎臓は腰の後ろにありますが腎臓は沈黙の臓器といわれ腎疾患になっても、痛くも痒くもなく症状が出た時には手遅れということが多くあるようです。腎臓病の原因は、現在、糖尿病性腎症がトップで、二位が慢性糸球体腎炎になっています。

血液透析について
透析療法とは、腎不全に対する生命維持の治療法です。

血液透析とは、
血液を、きれいにする治療です。血液を体の外に導き出し血液を浄化させて、身体に戻す治療です。血液の浄化は、人工の透析膜を介して、尿毒素を血液から透析液に移すと同時に必要な成

分を体にもどします。
シャントについて

シャントとはどんなものかをプロジェクトを使って説明がありました。また、シャント部位からの出血について各班に分かれて、実技の訓練をしました。実技訓練は、門司港腎クリニックの中山美沙子看護主任の応援をいただきました。実際にシャント部分に触れて、血流の音に驚いたり、止血部分を何度も確認したり、と実際にありうる事態の対処にボランティアの皆さんの真剣さのまなざしを感じました。最後に、送迎時の異常時対応について詳細な説明がありました。



1、透析後、顔色が悪くて発汗・脈が速い起立性低血圧Ⅱ横になって、足を上げる

2、透析後シャントからの出血止血綿の上から強く抑える

3、胸が痛い。狭心症患者Ⅱ手持ちの薬を使う(舌下)治らなければ救急車を呼ぶ

4、手足が動かない両側がしびれたように力が入らないⅡ高カリウム
片側がだらーっとしているⅡ脳卒中。車を停めて、医院へ連絡。

以上、大変解りやすく講義をしていただきました。

天高く馬肥ゆる秋、紅葉の秋、食欲の秋とか、人それぞれに、感じ方もちがうとは思いますが、

朝夕は肌寒く感じられてまいりました。

この度、九月一日より「さわやか」の



お手伝いをさせていただいております、井上康子です。現在、北九州ネフロクリニックで透析五年目になります。

昨年までは、福岡県障害者能力開発校のプログラム科で勉強していました。前々より、私でも、何か人の為にできる仕事はないかなといろいろ

八幡事業所に さわやかさんが仲間入り

と就職活動している中、縁あって、「さわやか」にお世話になることになりました。

江頭相談役ならびに山田理事長に、いろいろとこれまでの「さわやか」のご苦勞、歴史を聞き、本当に心打たれました。

何もわかりませんが、これから少しずつ、仕事を覚え、ボランティアの皆様と足並みそろえて頑張っていきたいと思っております。

ご迷惑かけることも、多いかと、思いますが、どうぞ末長くよろしくお願ひします。



門司港腎クリニック
看護主任 中山美沙子さん

質疑・応答では、四人の方から質問が出されました。また、先生は医療費の削減で透析医療が困難になってきたこと。透析患者が年々増加し、透析医療費がパンクしそうになっていることなども、お話になりました。参加者は、大変有意義な講演を聴き、皆様満足して、ウエルとばたを後にされました。

「第26回ボランティア研修交流会に参加して」

感想文

研修会に参加された中から二名の方に、感想文をいただきましたのでご紹介いたします。

八幡事業所 橋爪勝彌

朝九月二十四日十時〜十二時講習に参加し、自分がいかに人体と臓器について無知だったかを痛感致しました。

「門司港腎クリニック」の田中秀欣先生のわかりやすい説明とスライドで腎臓の働きがやっと理解できました。

特に、「糸球体」の働き、構造については、改めて人間の身体は、なんと素晴らしいのだろうと実感いたしました。

色々な臓器から成り立っている身体を大切に、健康に留意し、生活しなければと、決心した処です。

又、透析については、皆様の大変な労力と忍耐が必要だと思った次第です。貴重な時間を作っていただきありがとうございます。



ボランティアさんが患者さんの身になって...



質疑応答で、日頃の疑問など、盛んに質問しました。

小倉事業所 橋口洋三

今回は講師に、門司港腎クリニック院長の田中秀欣先生をお迎えして「安全、安心のために！透析患者さんを理解しましょう」との標題で、平易な内容の充実したテキストをもとに、スライドを駆使して詳細な説明をお聞きしました。

さすが現場の専門ドクターの講話だけに、その内容の充実ぶりは、日頃、透析患者さんを送迎しているボランティアの一人として、いつも心掛けておかねばならない安全第一の気持ちを一層引き締められました。

また、透析先進国世界一の日本の現状についても知識が広まり、昨今の医療改革とも無縁ではないことを一般市民としても、その予防について、周囲への啓蒙等の重要性も認識しました。

なお、送迎中の異常時対応や急変時の処置の重要なことも心構えとしたとて勉強になりました。

今後も、NPO法人通院介護センター「さわやか」のボランティアとして、少しでもお役にたつよう「安全・安心」をモットーに努めていきたいと思っております。スタッフの皆様のご活躍には頭がさがります。

救急袋

この度の研修会で講師をしてくださった田中先生にご提案いただきました、ボランティアの皆様にも準備していただくように準備しました。

ビニール袋

出血時に手先から、脇の下までスッポリとかぶせて、患者さんに片方の手で、出血（シヤント）部分を押さえてもらう。

ティッシュペーパー

給

出血時に、汚れたところを拭く。
個人の自由ですが、糖尿病の患者さんが低血糖になった時のためです。



編集後記

コスモスや紅葉狩りと、秋の行楽シーズン到来です。近くの団地内に立ち並ぶ銀杏の葉が少しずつ黄色味を帯びています。紅葉は北海道の間部から南下し、桜前線と対比し「紅葉前線」と呼ばれ、九州は十一月〜十二月が見ごろのようです。

「さわやか」事務局は、創立十周年記念式典の準備で大変ですが、一日ぐらいいは、ゆとりを作って英気を養うのもいいのではないのでしょうか。個人的に佐賀県にある「九年庵」の紅葉を一度、見てみたいものです。